

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2026年8月3日（第1版）

承認番号	25070
課題名	小児鼠径ヘルニアの再発リスク因子としての腹壁脆弱性を AI 画像解析で数値化する
研究期間	西暦 2026 年 8 月 31 日（実施許可日） ～ 2028 年 3 月 31 日
研究の対象	1990 年 1 月～2026 年 8 月に当院および共同研究機関の小児外科で鼠径ヘルニア手術を受けられた患者さん
利用する試料・情報の種類	☒ 診療情報（詳細：生年月日、性別、既往歴、治療歴、画像診断結果、術中動画、再発の有無等 ） ☐ 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） ☐ 血液 ☐ その他（ ）
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
外部への試料・情報提供	☐ 自施設のみで利用 ☒ 多施設共同研究グループ内（提供先：北見工業大学）（提供方法：情報を匿名化し、HDD で提供。郵送または手渡しで HDD を授受する。特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。照合表は、各施設の研究責任者が保管・管理します。） ☐ 海外へ提供（国名： ）（個人情報保護に関する制度の有無： ）（提供方法： ） ☐ その他（提供先： ）（提供方法： ） ☒ 利用/提供予定日：（実施許可日から 1 ヶ月後）
研究組織	旭川医科大学 外科学講座小児外科・助教 石井 生 東京科学大学 小児外科・診療科長 岡本 健太郎 北見工業大学 ラワンカル アビジート
研究の意義、目的	小児鼠径ヘルニアに対する LPEC(Laparoscopic Percutaneous Extraperitoneal Closure)の再発率は1%と低いですが、腹壁の脆弱性を伴う場合は再発率が高いと報告されています。本研究では、LPEC の術中画像から腹壁の脆弱性を客観的に数値で評価する方法を検討します。近年、腹腔鏡の術中動画を AI 解析するソフトが市販されており、それらを用いて内鼠径輪ないしは腹壁の構造を数値化し、鼠径ヘルニア再発との関連を調べます。術中に腹壁の脆弱性を数値で評価できるようになれば、初回手術で腹壁を補強する手技を加えることで再発を予防できる可能性があります。
研究の方法	当院で行われ、保存されている LPEC の手術動画を用いて解析します。再発症例・非再発症例の内鼠径輪（ヘルニアの入り口）および腹壁の構造を動画から解析し、立体構造を数値化します。その数値と、再発の有無との関連を調べま

	す。
その他	本研究は、特定の企業または営利団体から資金提供その他の支援を受けていません。本研究に関与するすべての研究機関および研究者について、開示すべき利益相反はありません。利益相反については、各研究機関の規程に従って適切に管理しています。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学 外科学講座 血管呼吸腫瘍病態外科学分野小児外科 電話 0166-68-2494 FAX 0166-68-2499 担当者・責任研究者：小児外科・助教 石井 生 研究代表者：旭川医科大学 外科学講座小児外科・助教 石井 生